

素 顔 拝 見

歯学教育開発室 特任准教授

石 田 陽 子

歯学教育開発室におります石田と申します。「素颜拝見」も3回目、在職期間も教授並みに長くなり、フレッシュさはゼロです。長いとは言っても、一時期本学からは離れておりましたし、頻繁に所属分野が変わっていますし、若干、「何者？」感があるらしいので、振り返ってみます。

本学をミレニアム卒業し、歯科補綴学第一教室の大学院に進学、学位は口腔生化学での研究で取得させていただき助教としても勤めさせていただきました。今でも現・包括歯科補綴学分野からは夏の納涼会にお誘いいただきますし（ありがとうございます！）、口腔生化学分野の照沼教授とは仲良くさせていただいています（これからもよろしくです！）。助教を退職して少しだけ外国に滞在したのち、新潟県内外で暫く勤務歯科医をしまして、本学予防歯科学からお呼ばれして特任教員として復職、何度か配置換えがあり現在に至ります。予防歯科学では、国際口腔保健を学ぶ大学院プログラムを開発するというお仕事をしました。その間に、歯学部では海外短期派遣・受入プログラム（SSSV）が始まりました。実は私、当時はSSSVに全然関与していなかったのですが、教授方が自ら本学学生をタイやらメキシコやらに連れて行ったり、来る留学生を新潟駅まで迎えに行ったり（教授が自分の車で！？）という姿を見ているうちに、「何かお手伝いすることありますか…？」と余計な手を出していましたところ、今はすっかり本務となっております。突然私事ですが2015年に出産しました。2016年からは「国際歯科保健医療学入門」という科目を担当し、歯学科2年生と

一緒に海外の医療や歯科医療事情を楽しく勉強しております。SSSVはコロナ禍で途絶えましたが、その間に、本学では文部科学省の「国費留学生を優先配置する特別プログラム」に採択され、優秀な国費留学生（大学院生）の受入が始まりました。募集、文科省への提出文書収集、大学院入試、宿舍申込、来日後の役所手続までワンストップサービスを行っております。アパートの手配にまで関わると、不動産用語も通訳しなければならず、今や敷金礼金とかまで英語で説明できます。（現在は請負業者がおり、楽になりました）

さて、昨年よりSSSVプログラムも再開いたしました。条件等が毎年厳しくなり、やっぱり大変ですが、若い学生が外国行ったり留学生が来たりするのはとても楽しくもあります。学内の先生方は、私からメールが行きますと、「また石田からなんか外国人の頼み事か…」と直感されてしまうと思いますが、その通りです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



2023年3月に再開した短期受入プログラム全留学生
筆者最前列右





摂食嚥下機能回復部

小 貫 和佳奈

2023年4月より摂食嚥下機能回復部の助教を拝命しました、小貫和佳奈（おぬきわかな）と申します。出身は茨城県北部の日立市、阿武隈山地の南端と太平洋に挟まれた片田舎です。海沿いですので冬の冷え込みも穏やかで降雪はなく、食べ物も美味しく、住み良い町です。有名どころはひたちなか海浜公園のネモフィラとROCK IN JAPAN FESでしょうか。中高は千葉との県境である利根川の河川敷にある学校に進学し、常磐線の普通列車で片道3時間をどんぶらこ通学しておりました。

新潟大学歯学部47期として入学、医歯学剣道部に所属しました。未経験なのに同期と一緒にうっかり入部してしまったのですが、剣道はダイナミックかつ繊細でとても楽しく、同期10人、総部員が40人近い大所帯時代もあり、なかなか濃い時間を過ごしました。また青春18きっぷや高速バスで国内を巡りつつ各所で美味しいものを食べるのが好きになり、卒業旅行は屋久島から新潟まで北上しながら各地にいる知人に会い、学生時代集大成旅といった様相でした。興味の赴くまま好きなことをし（結果、音楽とお笑いに傾倒）、お察しの学生生活でしたので、教員の立場になり反省もより色濃いですが、アンテナを広く持ち、人との繋がりを大切にすることを一番に据えたいと思い、今も仕事や生活で心掛けている次第です。

私が摂食嚥下リハビリに興味を持ったのは5-6年の臨床実習でした。たった1週間の実習でしたが、実際に「何の気兼ねもなく好きなものを好きなように食べられる状況ではない」方々を目の前にして、必要性を認識しました。長岡赤十字病院 歯科口腔外科と当科での臨床研修後、歯科治療も問題なくできなばと一旦実家開業歯科を経て、当科大学院に入学しました。摂食嚥下障害の臨床をやりたい、実家での診療も続けたいとい

う身勝手を通して頂きつつ、周りの先生方のお蔭で今に至ります。また2019年の口腔機能検査室の立ち上げから関わらせていただき、当院歯科外来における口腔機能低下症の臨床研究を継続し、現在は臨床研究推進センターのバックアップのもと「口腔機能管理が身体機能にもたらす効果」に関する縦断研究を開始しております。

医療連携や顎義歯、口腔機能精密検査に関連してなど、皆様には大変お世話になっておりました、いつも有難うございます。病棟と口腔機能検査室を中心に生息しており、ばたばたと落ち着きないかもしれませんが、是非気軽にお声掛け頂きますととても嬉しいです。

患者さんのために自分の立場からできることは何か、日々の臨床はもちろん、教育や研究の大切さは、遅れ馳せながら実感をもって理解しつつあるように感じています。大学や病院、地域の力に少しでもなれるよう精一杯努めますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



小児歯科・障がい者歯科診療室

朴 沢 美 生

令和5年4月1日付で小児歯科・障がい者歯科診療室の助教を拝命しました、朴沢美生（ほうざわみお）と申します。この度は貴重な執筆の機会をいただき、ありがとうございます。大学生の頃から歯学部ニュースを愛読しておりましたので、まさか自分が素顔拝見を書く時が来るとは思ってもいませんでした。拙い文章でお見苦しいかと思いますが、自己紹介を述べさせていただきます。

私は岩手県奥州市水沢というのどかな土地で育ちました。あのメジャーで大活躍中の大谷翔平選手の出生地です。父が歯科技工士をしており、幼き頃から印象材やワックスなどが身近にある生活をしておりました。叔父が歯科医ということもあり、将来は医療系の職に就きたいと考えるように

なり、推薦入試を経て新潟大学歯学部48期生として入学しました。大学の部活動は、優しく美しい先輩方に魅了され、弓道部を選択しました。弓道はあまり動かないので辛くないイメージがあるかもしれませんが、半個室の道場での部活動は、夏は暑く冬は寒い、そんな過酷さがありました。しかし、的の中心に矢が当たったときの爽快感は良いもので、その感覚を求めて、休日も自主練習をしていたことが、今ではとても懐かしいです。現在は一人で自主練習できるという点で通じる、ゴルフが趣味になっております。まだまだ練習中ですが、ラウンドすると自然に触れることができとても気持ちいいのでおすすめです。他に私の生活で重要なものは、美味しい食事とワインです。小さいときは食に興味のない、“食べない子”だったはずが、新潟のごはんが美味しすぎて目覚めてしまいました。

話が逸れてましたが、大学卒業後は、苦手を克服したくて半年間小児歯科学分野で研修をしました。こどもと接する機会がそれまでなく、将来開業医でこどもを診る時に対応に困るなあ、という

気持ちくらいで研修先を選んだのですが、小児歯科学の奥深さを知りもう少し学びたいと思うようになりました。さらに、支援学校の教師をしていた母の影響で「障がい者」の分野にも興味があったこと、専門医を取得したいと思っていたことから、小児歯科学分野へ大学院の進学を決意しました。大学院では、小児の口唇機能と口腔内圧の制御の解明を研究テーマとし、早崎先生と中村先生のご指導のもと研究を行いました。口輪筋の表面筋電図と口唇閉鎖圧と口腔内圧が同時計測可能な装置を用いて、現在も新たな知見を得るため研究を継続しております。今後も小児歯科を通じて歯学部の発展に貢献できるよう、日々邁進していく所存です。

最後になりますが、今年4月からは当分野の医局長を務めております。周りの方々にいつも支えていただきなんとかやっていると現状ですので、この場をお借りしてして御礼申し上げます。未熟者ゆえ至らぬ点があるかと存じますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

